

【資料】

産後3か月までの父親のコペアレンティングと関連要因に関する 文献レビュー

A Literature Review of Fathers' Coparenting Roles During the First Three Months Postpartum and Correlating Factors

松枝加奈子, 笹野 奈菜, 酒向なつみ, 間中麻衣子

Kanako Matsueda, Nana Sasano, Natsumi Sako, Maiko Manaka

キーワード：産後, コペアレンティング, 父親, 文献レビュー

Key Words : postpartum, coparenting, father, literature review

I. はじめに

コペアレンティング (coparenting) とは、父親と母親が親としての役割において互いに関係を築く方法を指す概念で、親役割を担う者が子どもの養育に関してお互いに協調し支援すること (Feinberg, 2003) と定義されている。コペアレンティングは、単に育児時間の分担や参加度を測定するだけでなく、父親と母親がお互いに育児の内容を調整し、支援し合うことに着目したところに特徴があると言える。

近年、父親の育児参加は母親の精神的健康や家族全体のウェルビーイングに寄与する重要な要素として着目されている。とくに産後早期 (産後3か月以内) は、母親の身体的・精神的回復や乳児の発達、夫婦双方の育児適応において重要な時期であり、この時期の父親の関与のあり方は、子どもの認知発達において2歳ごろまで肯定的な影響を及ぼす可能性があることが報告されている (Sethna et al., 2017)。

先行研究によれば、良好なコペアレンティングは母親の産後うつの軽減 (Estlein et al., 2023) や父親の育児の質や親子関係の安定 (Altenburger et al.,

2020) にも良い影響を及ぼすことが示されている。また日本の母親を対象にした縦断研究においても、産後1か月および3か月時点でのコペアレンティングの質が、母親のうつ症状や不安の軽減と関連していることを示している (Takeishi et al., 2021)。一方で、産後早期は夫婦共に睡眠不足や役割変化に直面しやすく、父親が十分に育児に関与できない場合や夫婦間の調整が困難な場合には、コペアレンティングが阻害され、母子の健康や家族機能に負の影響を及ぼすことが懸念される。

これまで父親のコペアレンティングを規定する要因として、母親の抑うつ状態、夫婦関係の質、社会的支援の有無、さらには出産前の結婚生活の質や子育ての信念が報告されている (McHale et al., 2004)。とくに産後3か月までの時期は、母親と乳児の生活リズムや育児行動が確立されていく過程であり、父親の関与のあり方がその後の家族の育児役割分担や共同養育関係に影響を及ぼす重要な時期といえる。近年の夫婦を対象とした出生前教室に関する研究として夫が妻の妊娠期の体験を知り、産後う

つを予防するプログラム (Ishii et al., 2020) はあるが、夫婦におけるコペアレンティングを視野に入れた支援は十分に確立されていない。中でも産後3か月までの父親のコペアレンティングに焦点を当てた研究は未だ少なく、その実態や関連要因を包括的に整理した知見は十分ではない。このため父親のコペアレンティングの実態と関連要因を把握することは、看護支援プログラムを開発・実践するうえでの理論的基盤となる。本文献レビューでは、産後3か月までの父親のコペアレンティングに関する研究を概観し、その実態と関連要因を整理することで、今後の看護支援の方向性を検討することを目的とする。

II. 方法

1. 文献検索

文献検索は、PRISMA-ScR (日本語版) ガイドライン (友利他, 2020) を参照し、文献検索のデータベースは、医学中央雑誌Web版 (以下医中誌)、EBSCO (MEDLINE, CINAHL) の学術論文データベースを用いた。系統的な文献検索を行うために、医中誌はシソーラス用語を用い、EBSCO (MEDLINE, CINAHL) はMeSH用語 (以下MH) を用いた主題検索を行った。検索対象期間は、文献を広く検索するため各データベースの全期間とした。医中誌の検索用語は、#1 “コペアレンティング”, #2 “父親”, #3 “産褥” とし、検索式は、(コペアレンティング/AL) AND (父親/TH or 父親/AL) AND (産褥/TH or 産褥/AL), 検索条件は会議録を除く、原著論文とした。EBSCO (MEDLINE, CINAHL) の検索用語は、コペアレンティングは#1 “Co-parenting or Coparenting”, 父親は#2 “father”, 産褥は#3 “postpartum”, とした。検索式は、(Co-parenting OR Coparenting) AND (“fathers”[Mesh]) AND (“postpartum”) とした。検索時期は、2025年8月であった。

選択基準は、1) 産後3か月までの父親のコペアレンティングを調査しているもの、2) 言語が日本語か英語とした。除外基準は、総説、会議録、レビューとした。

文献検索後、タイトルと要旨から選択基準・除外

基準により文献を抽出し、文献を取り寄せた。次に取り寄せた文献の内容の適格性を確認し、文献を選定し採用した。さらにハンドサーチにて、データベースで検索された文献の引用などからコペアレンティングについて記載のある文献を検討し、適格性を確認後に採用文献に加えた。

2. 分析方法

分析方法は、文献の発行年から年次推移と産後3か月までの父親のコペアレンティングに関する内容について検討した。文献の内容を検討したうえで、父親のコペアレンティングの実態と関連要因を明らかにするために、観察研究の発行年、対象者、調査国、調査項目としてコペアレンティングとその他、調査方法、調査期間、実態、関連要因の9つの視点で整理した。さらに関連要因は、父親のコペアレンティングに関連する要因を調査結果から抽出した。

III. 研究結果

表1に示した検索結果、EBSCO (MEDLINE, CINAHL) 52件、医中誌0件であった。検索選定のフローチャートを図1に示した。タイトルと要旨から選択基準と除外基準により文献を抽出し28件の文献を取り寄せた。さらに選択基準と除外基準を用いて、内容の適格性を確認し選定した文献20件、ハンドサーチで得られた2件を加え、22件を採用文献とした。なお、国内論文は1件のみであった。

1. 父親のコペアレンティングに関する文献の内容

採用文献とした22件における父親のコペアレンティングに関する文献の内容は、父親のコペアレンティングの実態と関連要因を検討した観察研究18件、父親のコペアレンティングにおける介入研究4件であった。

2. 父親のコペアレンティングの実態と関連要因の観察研究の概要

父親のコペアレンティングの実態と関連要因を検討した観察研究18件について、文献の概要を表2に示した。

1) 文献数の年次推移

文献の発行年は2004～2024年で、2004年が最も古かった。文献数は、2000年代が3件、2010年

代が4件, 2020年代が11件と徐々に増加傾向であった。2024年は検索日8月の時点で文献数は1件であった。

2) 対象者と調査国

18件の対象者は, 父親と母親14件 (No.2 ~ 6, 9 ~ 11, 13 ~ 18), 父親のみ2件 (No.7, 12), 父親と母親と胎児1件 (No.1), 父親と母親と乳児1件 (No.8) で, 父親と母親共に調査を行った研究が多かった。また第1子の父親を対象とした文献が14件

(No.1 ~ 4, 6 ~ 10, 12, 13, 16 ~ 18) であった。

調査国は, 米国11件 (No.4 ~ 11, 16 ~ 18), ポルトガル3件 (No.1, 3, 12), スイス2件 (No.14, 15), イスラエル2件 (No.2, 13) で米国が一番多かった。

3) コペアレンティングの調査方法と評価

調査方法は, 自記式の質問紙を用いた方法と産後に父親と母親が共同して乳児を育児している場面をビデオ録画し, その様子を調査員が評価する方法があった。質問紙が12件 (No.1 ~ 8, 10 ~ 13), ビ

表1 検索語および検索式と検索結果

(検索日 2025.8.18)

検索語および検索式		検索結果数
EBSCO (MEDLINE, CINAHL)		
#1	Co-parenting/Coparenting	1,287
#2	Father	126,707
#3	Postpartum	125,499
#4	#1 and #2 and #3 (PT=English)	52
医学中央雑誌Web版		
#1	コペアレンティング/AL	40
#2	父/TH or 父親/AL	8,749
#3	産褥/TH or 産褥/AL	25,855
#4	#1 and #2 and #3 and (PT=会議録除く)	1
#5	#1 and #2 and #3 and (PT=原著論文)	0

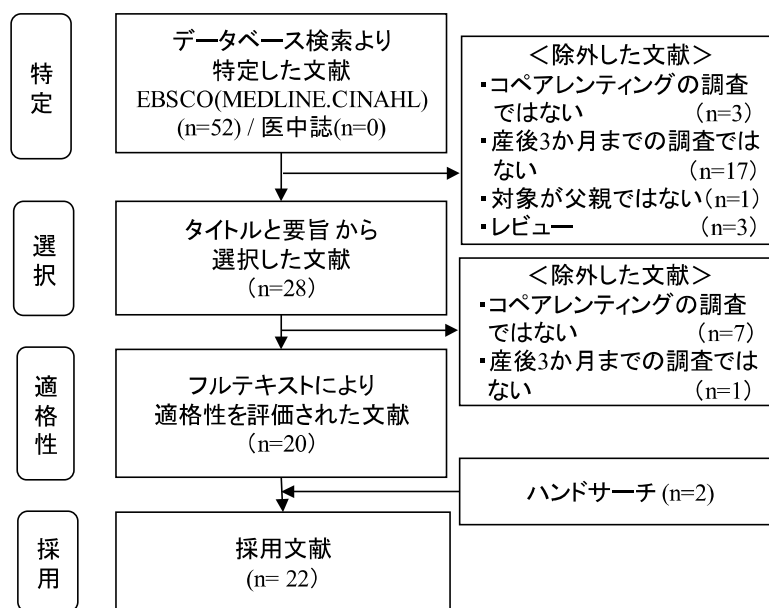


図1 文献選定のフローチャート

表2 父親のコペアレんティングの実態と関連要因に関する観察研究の概要

No	著者名 (年)	対象者 (調査国)	評価	調査方法	調査時期	実態	関連要因	結果
1	Pinto & Figueiredo (2024)	第1子の母親と父親と胎児86組 (ポルトガル)	CRS	質問紙	妊娠末期 産後2週 産後3か月	産後2週 肯定的 父親 25.36±10.73 母親 24.93±4.39 否定的 父親 2.60±1.55 母親 2.78±1.11	胎児心拍変動 乳児の調整能力	・父親の肯定的コペアレんティングは、母親の肯定的コペアレんティングと乳児の調整能力に正の相関があった。 ・胎児心拍変動が低い乳児は、父親が否定的コペアレんティングではない場合、胎児心拍変動の高い乳児よりも高い調節能力を示した。
2	Estlein & Shai (2023)	第1子の母親と父親107組 (イスラエル)	CRS コペアレんティング 行動	ビデオ録画 質問紙	妊娠末期 産後3か月 産後6か月	—	産後うつ	・父親と母親の産前コペアレんティングの否定的行動が、父親と母親の産後うつ病を予測した。 ・父親のサポートと承認、問題解決の取り組みは、父親の産後うつ病に加えて、産後3か月と6か月の母親の産後うつ病も予測した。
3	Pinto & Figueiredo (2023)	第1子の母親と父親71組 (ポルトガル)	CRS	質問紙	産後2週 産後6か月	産後2週 肯定的 父親 27.88±4.19 母親 30.23±3.01 否定的 父親 3.78±2.70 母親 3.77±1.26	乳児の調整能力	・産後2週目の父親の肯定的コペアレんティングと産後6か月の乳児の調整能力との関連があった。 ・COVID-19パンデミック中に生後6か月で評価された乳児の方が、パンデミック前の乳児よりも、産後2週間の父親の肯定的コペアレんティングと乳児の調整能力との関連が強かった。
4	Wang & Schoppe-Sullivan (2023)	第1子の母親と父親181組-共稼ぎ- (米国)	CRS	質問紙	産後3か月 産後9か月	—	親の感受性 親の積極的な関与	・産後3か月でのコペアレんティングの葛藤の少なさと承認の高さが、産後9か月での親の感受性の高さと関連していた。 ・産後3か月での支援の多さが、産後9か月での積極的な関与の高さと関連していた。
5	Teti et al (2022)	母親と父親124組 (米国)	CRS	質問紙	産後1か月 産後3か月 産後6か月	—	夜間睡眠 乳児への感情的な関わり 抑うつ/不安症状	・睡眠パターンとコペアレんティング・就寝時の乳児に対する母親の行動との関連性は、母親の睡眠環境の好みとは無関係である。父親は不明。
6	Schoppe-Sullivan et al (2022)	第1子の母親と父親182組-共稼ぎ- (米国)	CRS 下位尺度 障害 葛藤暴露	質問紙	妊娠末期 産後3か月 産後6か月 産後9か月	産後3か月 下位尺度 否定的-一障害 父親 0.74±0.92 母親 0.44±0.67 否定的-葛藤暴露 父親 0.71±0.80 母親 0.75±0.67	相互作用尺度 生家の共同養育尺度 親役割に関する信念尺度 子育ての自己効力感尺度 乳児行動尺度	・父親は、母親よりも産後3か月で障害をより高く認識していたが葛藤暴露に差はなかった。 ・父親は、親役割に関する信念の高まりが葛藤暴露の低さと関連していた。
7	Donithen et al (2022)	第1子の父親182名-共稼ぎ- (米国)	CRS 12項目 選抜	質問紙	妊娠末期 産後3か月 産後6か月 産後9か月	産後3か月 父親 5.31±0.69	子育ての自己効力感尺度 親密な関係の経験尺度 人格特性 対人共感性尺度 親役割に関する信念尺度 アンビバレント性差別尺度	・母親とのコペアレんティングを肯定的に認識する父親ほど、子育ての自己効力感が高かった。 ・父親の子育て自己効力感と最も強く関連していた独立変数は、共同養育、神経症傾向、愛着不安であった。
8	Kim et al (2021)	第1子の母親と父親と乳児167組 (米国)	CRS	質問紙	産後1か月 産後6か月 産後9か月 産後12か月	—	感情的対応尺度 乳児の愛着安全性尺度	・父親の肯定的/否定的コペアレんティングは、母親の肯定的/否定的コペアレんティングと正の相関がある。 ・父親の否定的コペアレんティングは、産後12か月の乳児の愛着と負の関連がある。 ・父親のコペアレんティングの質は、母親の感情的対応力を通じて母親の愛着と関連していなかった。
9	Altenburger et al (2020)	第1子の父親と母親182組 (米国)	コペアレんティング 行動	ビデオ録画	妊娠末期 産後3か月 産後6か月 産後9か月	産後3か月 温かさ 父親 2.81±0.82 母親 3.00±0.79 喜び 父親 2.79±0.89 母親 3.05±0.89	人格特性 直感的な養育行動尺度 養育的父親役割信念尺度 恋愛関係の質尺度 仕事への満足度 子どもの気質尺度 育児の質	・産後3か月で母親とのより支援的なコペアレんティングであった父親は、産後9か月に質の高い育児であった。 ・産後3か月の父親の温かさと喜びは、産後9か月の育児の質-感受性と肯定的配慮に正の相関があり、分離感に負の相関があった。

表2 父親のコペアレンティングの実態と関連要因に関する観察研究の概要 (つづき)

No	著者名 (年)	対象者 (調査国)	評価	調査方法	調査時期	実態	関連要因	結果
10	Olsavsky et al (2020)	第1子の母親と父親 182組 (米国)	CRS 下位尺度-親密さ	質問紙	妊娠末期 産後3か月 産後6か月 産後9か月	産後3か月 下位尺度 親密さ 父親 5.04±0.95	母親のゲートキーピング 二者関係の適応	・産後3か月では、母親のゲートキーピングのオープンと父親の共同養育の親密さおよび二者間の適応との間に正の相関があった。 ・産後3か月では、父親の共同養育-親密さと母親のゲートキーピングのクローズが負の相関があった。
11	Cava-Tadik et al (2020)	母親と父親 97組 (米国)	PAI	質問紙	妊娠末期 産後3か月	産後3か月 支援的コペアレンティング 父親 137.42±10.7	身体的愛情満足度 家事分担尺度	・産後3か月の父親の支援的コペアレンティングは、妊娠末期と産後3か月の母親と父親の身体的愛情満足度と正の相関があった。 ・妊娠末期の身体的愛情満足度が高いと産後3か月のコペアレンティングが支援的であった。
12	Pinto & Figueiredo (2019a)	第1子の父親 86名 (ポルトガル)	CRS-FPV	質問紙	妊娠初期 妊娠末期 産後1か月 産後6か月	産後1か月 葛藤 2.63±4.88 意見の不一致 7.00±6.80 阻害 4.48±3.71	愛着傾向:親密な関係の経験尺度	・妊娠初期から産後6か月まで、愛着回避度が高いほど、コペアレンティングの欠如の増加、葛藤の増加、意見の不一致の減少が少ないことに関連していた。
13	Shai (2019)	第1子の母親と父親 105組 (イスラエル)	CRS (暴露なし)	質問紙	妊娠末期 産後3か月 産後6か月 産後18か月	父親 4.98±0.62 母親 5.01±0.64	ストレス下における産前の家族連携尺度 産後の家族連携尺度 児の発達尺度	・妊娠末期の父親と母親のコペアレンティングと産後の父親のコペアレンティングと正の相関があった。 ・産後の父親のコペアレンティングとストレス下におけるコペアレンティングと正の相関があった。
14	Tissot et al (2017)	母親と父親 69組 (スイス)	LTP (1993)	ビデオ録画	産後3か月 産後9か月 産後18か月	産後3か月 支援 1.56±0.61 葛藤 0.51±0.59	産後うつ	・父親と母親の抑うつ症状は、コペアレンティングに影響を与える可能性が高い。 ・母親の抑うつ症状は、父親の抑うつ症状よりもコペアレンティングと関連する可能性が高い。
15	Favez et al (2016)	母親と父親 69組 (スイス)	LTP (1993)	ビデオ録画	産後3か月 産後9か月 産後18か月	産後3か月 支援 1.6±0.6 葛藤 0.5±0.6	親であること尺度 親の役割に関する信念尺度 産後うつ 結婚適応テスト	・父親の有能感、コペアレンティングの支援と負の相関関係にある。 ・親の役割に関する母親と父親の認識の相違が、産後18か月のコペアレンティングの葛藤の主な予測因子である。
16	Talbot et al (2009)	第1子の母親と父親 85組 (米国)	LTP (1999)	ビデオ録画	妊娠末期 産後3か月	産後3か月 温かさ 3.46±0.92 協力 3.44±0.79 競争 1.93±0.87 口論 1.88±0.96	成人愛着面接 成人愛着評価・分類システム 結婚適応テスト	・心が安定した父親の家族は、不安定な父親の家族よりも、産後3か月での共同養育の結束が高かった。 ・心が不安定な母親の家族は、安定した母親の家族よりも、産後3か月の共同養育の葛藤が高かった。 ・心が安定した父親の家族は、不安定な父親の家族よりも産後3か月の共同養育における葛藤が高かった。
17	Elliston et al (2008)	第1子の母親と父親 115組 (米国)	LTP (1999)	ビデオ録画	妊娠末期 産後3か月	産後3か月 温かさ 4.44±1.24 離脱 2.18±1.12	自我のレジリエンス 結婚適応テスト うつ病尺度	・共同養育中の父親の離脱は、母親の離脱、乳児との遊び中の無関心と温かさの低下と関連していた。 ・共同養育中の父親の離脱は、自我のレジリエンスの低さ、産後の抑うつの増加によって予測された。
18	McHale et al (2004)	第1子の母親と父親 50組 (米国)	LTP (1999)	ビデオ録画	妊娠末期 産後3か月	産後3か月 温かさ 3.54±0.86 協力 3.44±0.97 競争 2.04±0.97	妊娠期の結婚生活の質 結婚適応テスト うつ病尺度 子育ての信念尺度 乳児の調整能力	・父親の妊娠期の結婚生活の質における将来の家族の否定は、産後3か月のコペアレンティングの協力と温かさとの負の関連があるが、競争とは関連がなかった。

Coparenting Relationship Scale (CRS)(Feinberg et al., 2012)

Parenting Alliance Inventory (PAI; Abidin & Brunner, 1995)

Coparenting Relationship Scale-Father's Prenatal Version (CRS-FPV)(Pinto, Figueiredo & Feinberg, 2019b)

Lausanne Trilogue Play (LTP)(Corboz-Warnery, Fivaz-Depeursinge, Bettens & Favez, 1993)(Fivaz-Depeursinge & Corboz-Warnery, 1999)

デオ録画が7件 (No.2, 9, 14～18) であり、ビデオ録画と質問紙の両方が1件 (No.2) であった。

評価は、Coparenting Relationship Scale (以下 CRS) (Feinberg et al., 2012) の尺度を用いた調査が11件 (No.1～8, 10, 12, 13) であった。CRSは質問が35つあり、7段階で評価され、得点が高い方がよく当てはまると評価される。下位尺度は、肯定的コペアレンティングとして“合意”“親密さ”“支援/協力”“養育賛同”“分担”の5項目、否定的コペアレンティングとして“阻害”“葛藤暴露”の2項目あり、合計7項目である。下位尺度を用いた調査3件 (No.6, 10, 13)、質問を12個選抜した調査1件 (No.7)、父親対象に改訂したCoparenting Relationship Scale–Father’s Prenatal Version (CRS-FPV) (Pinto et al., 2019b) 尺度を用いた調査が1件 (No.12) であった。Parenting Alliance Inventory (以下 PAI) (Abidin et al., 1995) 尺度が1件 (No.11) であった。PAIは質問が20つあり、5段階で評価され、得点が高い方が協力関係が良好とされる。

ビデオ録画を用いた評価として、Lausanne Trilogue Play (以下 LTP) (Corboz-Warnery et al., 1993; Fivaz-Depeursinge et al., 1999) が5件 (No.14～18) であった。LTPは親子が自然に遊ぶ様子をビデオ録画し父親と母親のコペアレンティングを共に評価する手法である。またコペアレンティング行動が2件 (No.2, 9) であった。コペアレンティング行動は、育児行動を6段階で評価し、得点が高いほど育児行動の頻度が多いことを示す。下位尺度は“協力”“喜び”“温かさ”の3項目がある。

4) 調査時期

18件の観察研究はすべて縦断研究であり、妊娠期から調査している研究が12件 (No.1, 2, 6, 7, 9～13, 16～18) であった。調査時期は、すべて縦断調査のため重複があるが、産後2週2件 (No.1, 3)、産後1か月3件 (No.5, 8, 12)、産後3か月15件 (No.1, 2, 4～7, 9～11, 13～18)、産後6か月9件 (No.2, 3, 5～10, 12)、産後9か月8件 (No.4, 6～10, 14, 15)、産後12か月1件 (No.8)、産後18か月3件 (No.13, 14, 15) で、多くの研究が妊娠期から調査をはじめ、産後3か月に多く調査していた。

3. 父親のコペアレンティングの実態と関連要因

1) コペアレンティングの実態

コペアレンティングの評価に用いられた尺度は、CRSが最も多く用いられていた。産後2週時点の平均点は、肯定的コペアレンティング 25.36 ± 10.73 点、否定的コペアレンティング 2.60 ± 1.55 点 (No.1) であったが、他の時期は示されていない。下位尺度のみの調査では、産後3か月時点で肯定的コペアレンティングの親密さ 5.04 ± 0.95 点 (No.10)、否定的コペアレンティングの阻害 0.74 ± 0.92 点 (No.1)、葛藤暴露 0.71 ± 0.80 点 (No.1) であった。

コペアレンティング行動は、産後3か月時点の平均点は、温かさ 2.81 ± 0.82 点、喜び 2.79 ± 0.89 点 (No.9) であったが他の時期は調査されていない。一方LTPを用いた調査では、父親と母親共に家族として評価するため、父親のみのコペアレンティングを得点化し評価することはできなかった。

父親と母親を比較した調査を見ると、産後2週の肯定的コペアレンティングは父親と母親で差がなく、否定的コペアレンティングも父親と母親で差がなかった (No.1, 3)。産後3か月のCRS下位尺度の“否定的な阻害”では、父親の方が母親より有意に得点が高かったが、“葛藤暴露”では有意な差はなかった (No.6)。一方で、産後3か月でコペアレンティング行動を調査した結果では、“温かさ”や“喜び”で、父親と母親で差がなかった (No.9)。

2) コペアレンティングの関連要因

父親のコペアレンティングにおける関連要因を分析した結果、時期によって妊娠期と産後に分類できた。さらに妊娠期は父親の要因と胎児の要因があり、産後は父親の要因、母親の要因、乳児の要因、社会的要因に分けられた。妊娠期では、父親の要因として親役割に関する信念の高さ (No.6)、妊娠期のコペアレンティング (No.13)、愛着回避 (No.12)、身体的愛情満足 (No.11)、胎児の要因として胎児心拍変動 (No.1) があった。産後は、乳児の要因として乳児の調整能力 (“落ち着きやすさ”といった乳児が行動を調整できる能力) (No.1, 3)、父親の要因として産後うつ (No.2)、親の感受性の高さ (No.4)、親の積極的な関与の高さ (No.4)、子育て

自己効力感 (No.7), 育児の質 (No.9), 愛着回避 (No.12), 有能感 (No.15), 二者間の適応 (No.10), 母親の要因として母親の肯定的コペアレンティング (No.8), 母親のゲートキーピング (No.10), があった。社会的要因としてCOVID-19パンデミック (No.3) が示されたが, 睡眠環境 (No.5) や母親の要因として就寝時の乳児に対する母親の行動 (No.5) との関連は不明であった。

IV. 考察

1. 研究の概要

本レビューの結果, 父親のコペアレンティングに関する研究は, 2004年以降に開始され, 近年徐々に増加していることが明らかとなった。とくに米国を中心とする国外の研究では, 産後早期における父親のコペアレンティングが調査されていることが示されていた。一方で日本はごく僅かであり, 父親のコペアレンティングに関する実態や関連要因は十分に明らかにされていなかった。日本ではこれまで母親が産後早期の育児の主体を担う傾向が高く, 父親の育児参加はまだ十分ではなく (男女共同参画局, 2020), コペアレンティングがあまり注目されていなかったと考える。日本では2022年に「産後パパ育休 (出生時育児休業)」制度が創設され, 父親が産後早期から育児に関与する制度的基盤が整いつつあり, 育児休業の取得率も40.5%と増加傾向となっている (厚生労働省, 2025)。今後, この制度を活用した父親の育児参加の実態やコペアレンティングの実態, 父親と母親の心身の健康とコペアレンティングとの関連を明らかにすることが期待される。

2. 父親のコペアレンティングの実態と関連要因

1) コペアレンティングの実態

コペアレンティングの評価に用いられていた方法をみると, 父親のコペアレンティングを評価する際に用いられたCRSは, 下位尺度のみを抽出して使用したもの, 質問を12つに短縮した選抜版, さらに改訂版など, 多様な形式で活用されていた。また調査時期にばらつきがあるうえに調査が少なく, このため産後3か月までの父親のCRSの平均値を提示することは難しかった。またLTPを用いた研究

では, 父親と母親を含む家族全体として相互作用を評価する手法のため, 父親のみのコペアレンティングを独立して定量的に評価することができなかった。これらの点から, 現時点では父親のコペアレンティングの水準を一貫して比較することが難しく, 測定方法の標準化や, 父親に特化した評価指標の開発が今後の課題として考えられる。

父親と母親を比較した研究において, 本レビューで整理された知見は, コペアレンティングの肯定的・否定的側面における精査が時期や測定方法によって異なる傾向を示していた。産後2週時点によるコペアレンティングの肯定的・否定的な評価においては, 父親と母親の間で差がなかった (Pinto et al., 2023/2024)。このことは, 産後のきわめて早期の段階では両親共に育児環境の変化に適応を始めている段階であり, 育児における共同の質や否定的な共同がまだ顕在化しにくい可能性を示している。つまり産後2週間は, 父親と母親が試行錯誤しながら役割調整をしている時期であり, 両者のコペアレンティングに大きな差がないと考える。一方, 産後3か月時点におけるCRS下位尺度の“否定的な障害”では, 父親の得点が母親より有意に高いと報告されていた (Schoppe-Sullivan et al., 2022)。これは父親が母親の育児行動を妨げ, 干渉しやすい傾向があることを示唆している。産後3か月では母親は授乳や日常ケアを行うことが多く育児に慣れてくる時期だが, 父親は育児に慣れず母親への配慮や調整が上手くできないことが影響している可能性が考えられる。一方で, 同じ下位尺度の“葛藤暴露”は父親と母親に有意差が認められなかった (Schoppe-Sullivan et al., 2022)。“葛藤暴露”は, 夫婦間の葛藤を乳児の前で表出するかを問うものであり, 父親と母親のどちらか一方に著明に偏るものではないためと思われる。またコペアレンティング行動を観察法で捉えた研究では, 温かさや喜びといったポジティブな側面に関して父親と母親に差がなかった (Altenburger et al., 2020)。これは育児において共同する行動では, 父親と母親共に乳児に温かい関係を見せることを示唆している。

自記式の質問紙であるCRSと観察法のコペアレ

ンティング行動やLTPでは、把握できる側面が異なる可能性がある。自記式の場合は主観的意識となり、父親と母親の受け止め方の違いが表れる。観察法は、調査者が評価するため客観的であるが、調査する場所や乳児の様子にも左右され、家庭での育児の共同状況を捉えきれない。よって両方の方法を用いて総合的に評価する必要があると言える。

2) コペアレンティングの関連要因

父親のコペアレンティングに関する要因は、妊娠期と産後に大別されることが明らかになった。妊娠期では、父親の親役割に関する信念の高さ (Schoppe-Sullivan et al., 2022)、妊娠期のコペアレンティング (Shai, 2019)、愛着回避 (Pinto et al., 2019a)、身体的愛情満足 (Cava-Tadik et al., 2020) といった父親自身の心理的な要因が関連していた。これは、父親は出産前から親になる準備や母親との関係性が産後のコペアレンティングに影響を及ぼすことを示している。また妊娠中からコペアレンティングを高めておくことが産後に繋がることを示唆されていた。出生前教室に父親と母親で参加することが父親の育児への関心や動機付けに寄与することが報告されており (井上他, 2017)、父親が産後に育児に関与しコペアレンティングを高めるには、妊娠期から出生前教室などで親になる準備を母親と共にを行い、母親との関係性を円滑にする支援をする必要があると考える。

産後はさらに要因が多様化していた。父親自身の心理的な要因では、産後うつ (Estlein et al., 2023) が報告されていた。近年、日本人男性を対象としてメタアナリシスでは産後うつの有病率が9.7% (Tokumitsu et al., 2020) と報告されており、母親と同様に父親の産後うつが問題視されている。父親のコペアレンティングを向上することで、産後うつを予防できる可能性があり看護支援が必要と言える。また母親側の要因としては、母親の肯定的なコペアレンティング (Kim et al., 2021) が父親の肯定的なコペアレンティングに影響することが示されていた。母親が父親と共同して育児行動を行うことを肯定的に捉えることで、父親自身が肯定的に捉えることができると言え、産後も母親と調整しながら

育児を共に行うことが必要と考える。乳児の要因として、乳児の調整能力が父親のコペアレンティングに関連があること示されている。調整能力が高い乳児は、母親から育てやすいと認識され情緒が安定していることが示唆されており (Crockenberg et al., 2003)、父親においても同様に認識されることが想定され、乳児の情緒が安定していると父親のコペアレンティングも良くなると思う。コペアレンティングは、父親や母親の要因だけでなく、乳児の特性によっても形成されるという相互作用が示されている (Feinberg, 2003)。このため医療従事者は、乳児が泣くことやぐずることを理解し、適切に対応するスキルを父親に伝えること (井上他, 2017) が求められる。

産後3か月まで父親のコペアレンティングは多層的な要因に影響を受け、妊娠期から産後にかけて要因が変化していくことが示されていた。看護支援においては、妊娠期から介入が必要であり、産後においても継続的な支援が求められる。産後においては、父親のみならず、母親や乳児の影響があるため、その家族全体を包括的な視点をもって支援することが必要である。さらに日本での研究に限られており、国外の研究は文化的背景から知見をそのまま利用することが難しい側面もある。今後、産後パパ育休制度の普及も踏まえて制度・施策的な側面の関連要因の検討が求められる。

V. 研究の限界

本研究は、言語を英語と日本語に限定したため、すべての研究を網羅できておらず、研究の限界と言える。

VI. 結論

本レビューでは、産後3か月までの父親のコペアレンティングに関する研究を概観し、その実態と関連要因を整理することで、今後の看護支援の方向性を検討することを目的とした。その結果、以下のことが明らかとなった。

1. 父親のコペアレンティングに関する研究は、2004年から開始され近年徐々に増加傾向であった。

2. 父親のコペアレンティングの評価は、CRSが最も多かったが多様な形式で用いられているため、産後3か月までのコペアレンティングの平均値を提示することが難しく、定量的な水準を一貫して見出すことも困難であった。

3. 父親と母親の比較では、産後3か月時点でCRS下位尺度の「否定的な阻害」が父親の得点が母親より有意に高いと報告されていた。

4. コペアレンティングに関する要因は、妊娠期と産後に大別された。父親は出産前から親になる準備や母親との関係性が産後のコペアレンティングに影響を及ぼすことが示唆されていた。医療職者は、妊娠期に出生前教室などで親になる準備を母親と共にし、母親との関係性を円滑にする支援を行う必要がある。

5. 産後は、父親自身だけでなく、母親や乳児の影響があるため、家族全体を包括的な視点を持って看護支援することが必要である。

利益相反

本研究における利益相反はない。

文献

Abidin RR, Brunner JF (1995): Development of a parenting alliance inventory, *Journal of Clinical Child Psychology*, 24(1), 31-40. https://doi.org/10.1207/s15374424jccp2401_4

Altenburger LE, Schoppe-Sullivan SJ (2020): New fathers' parenting quality: Personal, contextual, and child precursors, *J Fam Psychol*, 34(7), 857-866. <https://doi.org/10.1037/fam0000753>

Cava-Tadik Y, Brown GL, Mangelsdorf SC (2020): Fathers' Satisfaction With Physical Affection Before and After the Birth of a New Baby: Cross-Parent Effects and Associations With Family Dynamics, *Journal of Family Issues*, 41(4), 415-436. <https://doi.org/10.1177/0192513X19875779>

Corboz-Warnery A, Fivaz-Depeursinge E, Bettens CG, et al. (1993): Systemic analysis of father-mother-baby interactions: The Lausanne Triadic Play, *Infant Mental Health Journal*, 14(4), 298-316. [https://doi.org/10.1002/1097-0355\(199324\)14:4<298::AID-IMHJ2280140405>3.0.CO;2-%23](https://doi.org/10.1002/1097-0355(199324)14:4<298::AID-IMHJ2280140405>3.0.CO;2-%23)

Crockenberg SC, Leerkes EM (2003): Parental acceptance, postpartum depression, and maternal sensitivity: mediating and moderating processes, *J fam psychol*, 17(1), 80-93. <https://doi.org/10.1037//0893-3200.17.1.80>

男女共同参画局 (2020): 男女共同参画白書令和2年版 第2節 家族類型から見た「家事・育児・介護」と「仕事」の現状, https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/honpen/b1_s00_02.html (2025年10月12日検索).

Donithen R, Schoppe-Sullivan S (2022): Correlates and Predictors of Parenting Self-Efficacy in New Fathers, *J Fam Psychol*, 36(3), 396-405. <https://doi.org/10.1037/fam0000910>

Elliston D, McHale J, Talbot J, et al. (2008): Withdrawal from coparenting interactions during early infancy, *Fam Process*, 47(4), 481-499. <https://doi.org/10.1111/j.1545-5300.2008.00267.x>

Estlein R, Shai D (2023): Actor and partner effects of prenatal coparenting behavior on postpartum depression in first-time parents, *Journal of Social and Personal Relationships*, 40(11), 3540-3562. <https://doi.org/10.1177/02654075231179080>

Favez N, Tissot H, Frascarolo F, et al. (2016): Sense of Competence and Beliefs About Parental Roles in Mothers and Fathers as Predictors of Coparenting and Child Engagement in Mother-Father-Infant Triadic Interactions, *Infant and Child Development*, 25(4), 283-301. <https://doi.org/10.1002/icd.1934>

Feinberg ME (2003): The internal structure and ecological context of coparenting: a framework for research and intervention, *Parent Sci Pract*, 3(2), 95-131. https://doi.org/10.1207/s15327922par0302_01

Feinberg ME, Browin LD, Kan ML (2012): A Multi-Domain Self-Report Measure of Coparenting, *Parent Sci Pract*, 12(1), 1-21. <https://doi.org/10.1080/15295192.2012.638870>

Fivaz-Depeursinge E, Corboz-Warnery A (1999): *The Primary Triangle: A Developmental Systems View of Fathers, Mothers, and Infants*, Basic Books, New York.

井上千晶, 長島玲子 (2017): 出産前教室が夫の対児感情及び育児動機に及ぼす影響乳児とその親との関わりの有無に

- よる比較, 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 12, 1-10.
- Ishii K, Goto A, Watanabe K, et al. (2020): Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan, *Health Care Women Int*, 41(3), 330-344. <https://doi.org/10.1080/07399332.2019.1643350>
- Kim CY, Fredman SJ, Teti DM (2021): Quality of Coparenting and Infant–Mother Attachment: The Mediating Role of Maternal Emotional Availability, *J Fam Psychol*, 35(7), 961-971. <https://doi.org/10.1037/fam0000846>
- 厚生労働省 (2025): 令和6年度育児休業取得率の調査結果 (雇用均等基本調査)のポイントについて, https://tomoiku.mhlw.go.jp/assets/pdf/activity/document_R6.pdf (2025年9月20日検索).
- McHale JP, Kazali C, Rotman T, et al. (2004): The transition to coparenthood: parents' pre-birth expectations and early coparental adjustment at 3 months postpartum, *Dev psychopathol*, 16(3), 711-733. <https://doi.org/10.1017/s0954579404004742>
- Olsavsky AL, Mahambrey MS, Berrigan MN, et al. (2020): Adult attachment and jealousy of the partner–infant relationship at the transition to parenthood, *Journal of Social and Personal Relationships*, 37(6), 1745-1765. <https://doi.org/10.1177/0265407520908336>
- Pinto TM, Figueiredo B (2019a): Attachment and coparenting representations in men during the transition to parenthood, *Infant Ment Health J*, 40(6), 850-861. <https://doi.org/10.1002/imhj.21820>
- Pinto TM, Figueiredo B, Feinberg ME (2019b): The Coparenting Relationship Scale—Father's Prenatal Version, *Journal of Adult Development*, 26(3), 201-208. <https://doi.org/10.1007/s10804-018-9308-y>
- Pinto TM, Figueiredo B (2023): Positive coparenting previous to the COVID-19 pandemic can buffer regulatory problems in infants facing the COVID-19 pandemic, *Infancy*, 28(6), 1067-1085. <https://doi.org/10.1111/infa.12561>
- Pinto TM, Figueiredo B (2024): Is lower fetal heart rate variability a susceptibility marker to the impact of negative coparenting on infant regulatory capacity?, *Infant Ment Health J*, 45(2), 153-164. <https://doi.org/10.1002/imhj.22099>
- Schoppe-Sullivan SJ, Nuttall AK, Berrigan MN (2022): Couple, parent, and infant characteristics and perceptions of conflictual coparenting over the transition to parenthood, *J Soc Pers Relat*, 39(4), 908-930. <https://doi.org/10.1177/02654075211048954>
- Sethna V, Perry E, Domoney J, et al. (2017): Father–Child Interactions at 3 months and 24 months: Contributions to Children's cognitive Development at 24 months, *Infant Men Health J*, 38(3), 378-390. <https://doi.org/10.1002/imhj.21642>
- Shai D (2019): The Inconsolable Doll Task: Prenatal coparenting behavioral dynamics under stress predicting child cognitive development at 18 months, *Infant Behav Dev*, 56, 101254. <https://doi.org/10.1016/j.infbeh.2018.04.003>
- Takeishi Y, Nakamura Y, Yoshida M, et al. (2021): Associations between Coparenting Relationships and Maternal Depressive Symptoms and Negative Bonding to Infant, *Healthcare (Basel)*, 9(4), 375. <https://doi.org/10.3390/healthcare9040375>
- Talbot JA, Baker JK, McHale JP (2009): Sharing the love: prebirth adult attachment status and coparenting adjustment during early infancy, *Parent Sci Pract*, 9(1/2), 56-77. <https://doi.org/10.1080/15295190802656760>
- Teti DM, Fronberg KM, Fanton H, et al. (2022): Infant sleep arrangements, infant–parent sleep, and parenting during the first six months post-partum, *Infant Behav Dev*, 69, 101756. <https://doi.org/10.1016/j.infbeh.2022.101756>
- Tissot H, Favez N, Ghisletta P, et al. (2017): A Longitudinal Study of Parental Depressive Symptoms and Coparenting in the First 18 Months, *Fam process*, 56(2), 445-458. <https://doi.org/10.1111/famp.12213>
- Tokumitsu K, Sugawara N, Maruo K, et al. (2020): Prevalence of perinatal depression among Japanese men: a meta-analysis, *Ann Gen psychiatry*, 19(1), 65. <https://doi.org/10.1186/s12991-020-00316-0>
- 友利幸之介, 澤田辰徳, 大野勘太, 他 (2020): スコーピングレビューのための報告ガイドライン日本語版: PRISMA-ScR, *日本臨床作業療法研究*, 7, 70-76.
- Wang J, Schoppe-Sullivan S (2023): Do associations between coparenting relationships and parenting behaviors differ for new mothers and fathers?, *J Fam Psychol*, 37(5), 647-657. <https://doi.org/10.1037/fam0001112>